

(1)

問一	㊦ 維持	㊧ 矛盾	㊨ 吟味	㊩ 振る舞い	㊪ 根源(二元)
問二	脳科学が用いている心理学カテゴリーにおいて日常的に使われている言葉を、脳科学者や心理学者が無批判に踏襲していること。				
問三	社会的文脈や社会的価値を考えず、ただ単に脳の機能という観点だけで疑問を発しているから。				
問四	コミュニケーションは、受信者と発信者が共通の文脈や場を維持し、互いにその役割を交代し合うことで成立するということ。				
問五	例えば「アイデンティティ」という言葉は、人間社会の構成員一人ひとりに必ず生まれるもの、あるいは育まれているものとして、社会全体の共通理解のもとに成立しているということ。				

(2)

問一	㊦ あいさつ	㊧ すこみ	㊨ むち	㊩ せつな	㊪ めい
問二	目の前の嫌な男を意識しないようにしていたため、居眠りから覚めた時の気分は落ちていたことを示している。また、その後の不快な出来事に接した際の昂揚感との対比を際立たせている。				
問三	それまでは、帽子を拾い届けてくれた農夫に対して礼を言わないどころか傲慢な態度をとる人物として描かれていたが、馬車を下りた後は農夫の幻影に襲われ、気絶するほど怯える精神状態が異様な人物として描かれる。				
問四	周囲の人に対して傲慢な態度をとる男に対して、関係を持たないようにしていたが、農夫の親切にまで尊大に振る舞う残忍さ、冷酷さ、無神経さに嫌悪感を募らせていた。しかし、人情を解さない傍若無人だと思えた男にも弱い部分があることを伺わせる出来事を経て、後日、声をかけたが拒絶され、他人に心を許さない、男の頑なさを実感している。				

(3)

問四	問三				問二	問一		
学識があると帝から認められ、それを妬んだ女房達から陰口をたたかれ、うつとうしく思っている。	る	し	才	ふ	学識をひけらかすと陰口をたたかれたので、あえて何も学識の無いことを強調したかったから。	c 立派に書家にお書かせになり	b とても学識をひけらかすのですよ	a いやな陰口
	。	て	が	と				
		、	る	推				
		日	ー	し				
		本	と	は				
		紀	、	か				
		の	殿	り				
		御	上	に				
		局	人	、				
		と	な	ー				
		ぞ	ど	い				
		つ	に	み				
		け	い	じ				
	た	ひ	う					
	り	ち	な					
	け	ら	む					

(4)

問四	問三	問二	問一	
十人がかりでも持ち上げられなかった小さな酒の器を、老人が指一本で持ち上げた。また、その酒は二人で一日中飲んでも尽きなかった。	二人で壺の中に入り、仙界を体験したこと。	老人が長房に壺の中での体験を他言することを禁じたこと。	長房が老人の不思議な行為に関心を持っているということ。	
			老人が長房に壺の中での体験を他言することを禁じたこと。	
			① これをみることなく	② しいづくんぞよくあひしたがはんや